

(別紙様式3)

平成31年3月29日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 千葉県千葉市中央区市場町1-1
管理機関名 千葉県教育委員会
代表者名 教育長 澤川 和宏 印

平成30年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成30年4月2日(契約締結日)～平成31年3月31日

2 指定校名

学 校 名 千葉県立成田国際高等学校

学校長名 渡邊 信治

3 研究開発名

「成田発！2020年に向けてアジアとの共生を担うグローバル・リーダーの育成」

4 研究開発概要

アジア諸国・地域の人々と互いを尊重しつつ、平和的・健康的な生活を営みながら、協働してアジア全体、ひいては世界の持続的発展に貢献できるグローバル・リーダーを育成することを目的とし、以下の7つの資質・能力を育成する。

①課題発見・問題解決能力 ②論理的思考力 ③コラボレーション能力

④コミュニケーション能力 ⑤具体的な解決を図る企画力

⑥異文化に対する受容性 ⑦日本文化理解と発信力

これらの資質・能力を育成するための研究開発として、行政機関、民間企業、スーパーグローバル大学等の協力を得ながら以下の「研究開発1」及び「研究開発2」を行なう。

研究開発1 GS 課題研究 (GS 課題研究基礎・発展・活用)

研究開発2 GS プログラム (課題研究以外の研究開発)

(1) 全教科の授業改善による生徒主体のアクティブ・ラーニング

(2) 日本文化発信プロジェクト

(3) ボランティア活動・インターンシップを通じた具体的な解決を図る企画力の育成

(4) 海外留学・海外大学進学、国内スーパーグローバル大学進学支援

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
運営指導協議会								○				○
海外交流 アドバイザー						○	○	○	○	○	○	○
事務補助員						○	○	○	○	○	○	○
千葉大学との 連携支援				○		○	○	○	○	○	○	○
学校訪問 事業視察							○			○		
県グローバル スクールの指定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(2) 実績の説明

SGHの対象者は、課題研究基礎【1学年全体8クラス】、課題研究発展【2学年全体8クラス】、課題研究活用【3学年選択】である。

ア 運営指導協議会（年3回実施）

実施日：7月20日（金）、11月21日（木）、3月11日（月）

※7月20日は都合により中止した。

イ 海外交流アドバイザー取扱要領の制定及び雇用

平成30年9月20日～平成31年3月31日まで、1名雇用した。

ウ 事務補助員取扱要領の制定及び雇用

平成30年9月1日～平成31年3月31日まで、1名雇用した。

エ 千葉大学・成田国際高等学校連絡協議会（1回実施）

実施日：3月14日（木） 場所：千葉大学国際教育センター会議室

オ 学校訪問・事業視察

- (ア) 日本文化発信「和のコラボ」を成田市長が訪問 10月27日（土）
- (イ) 福井県立武生高校が本校を視察 10月20日（金）
- (ウ) SGH研究発表大会 1月24日（木）

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（30年4月1日～31年3月31日）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
① 運営指導協議会の開催								○				○
②総括アドバイザーによる指導・助言等	○			○				○				
③校内の研究体制整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
④連携機関との連携計画作成												○
⑤アクティブラーニングに関する教員研修								○	○			
⑥教育課程の円滑な運用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑦SGH指定校視察・発表大会参加				○				○	○			○

⑧GS 課題研究基礎教材開発・実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑨GS 課題研究発展教材開発・実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑩GS 課題研究活用教材開発・実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
⑪GS 教養講座の実施												
⑫国内フィールドワーク	○	○	○	○	○	○						
⑬海外フィールドワーク計画・連携交渉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑭1年次発表会の実施						○					○	
⑮2年次発表会の実施						○			○		○	
⑯海外姉妹校への生徒派遣					○							○
⑰探究型授業の推進・言語活動の充実	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑱日本文化発信プロジェクト		○	○	○	○	○	○	○				
⑲ボランティア養成プログラムの作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
⑳ボランティア・インターンシップ調整	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉑海外留学説明会の実施		○		○					○			
㉒研究開発について総括・検証	○			○				○		○	○	○

(2) 実績の説明

◆研究全体の環境整備と研修

②総括アドバイザー（東京海洋大学・小松俊明教授）による指導・助言等（3回）

実施日：4月12日（水）、7月18日（水）、11月28日（水）

③校内の研究体制整備

- ・SGH コア委員会の組織編成、課題研究委員会（1年、2年、3年）の設置
- ・職員研修の実施 実施日：9月11日（火）講師：岡本尚也 氏(Glocal Academy)

④連携機関との調整及び連携（千葉大学との調整1回）

実施日：3月14日（木）

◆研究開発1 課題研究

⑦SGH 指定校視察・発表大会参加（5回）

実施日：7月24日（火）～28日（土）、11月27日（火）、12月15日（土）、12月23日（日）
3月20日（水）、3月23日（土）

⑧GS 課題研究基礎（1年次） 教材開発・実施

期日	概要
平成30年 4月	〔講演①〕 「SGHとは」（担当者：校長、SGH主任）
	〔講演②〕 「トビタテ！SGH成国からグローバルな世界へ」 講師：小松俊明氏（東京海洋大学教授・本校総括アドバイザー）
5月	【グループ活動①②】 グローバル化とわたしたちの生活、映画試聴「スマホの真実」
6月	【グループ活動③】 ロールプレイ①「ペナン島とグローバリゼーション」
7月	【グループ活動④】 ロールプレイ②「成田空港拡張」「学校教育改革」 【国内フィールドワークガイダンス】
9月	【国内フィールドワーク事前準備】
10月	【国内フィールドワーク体験】 【国内フィールドワーク事後学習】

10月	〔講演③〕 「日本の複雑さを旅する」 講師：望月優大氏（ライター）
11月	【グループ研究①②③】 「発想を広げる」 「批判的に考える」 「焦点を絞る」
12月	【グループ研究④】 「研究計画相談会」
1月	【グループ研究⑤⑥⑦】 「中間発表会準備」
2月	【グループ研究⑧】 「中間発表リハーサル」
	【校内中間発表会】 【グループ研究⑨】 「中間発表会振り返り」

⑨GS 課題研究発展（2年次） 教材開発・実施

期日	概要
平成30年 4月	【グループ研究①】 「昨年度の反省」 「今年度の活動の見通し」
	〔講演①〕 「課題研究のアプローチと観点 ～批判性・論理性・創造性～」 講師：小林聡子氏（千葉大学助教）
5月	【グループ研究②】 「研究計画の再検討」
6月	【グループ研究③④】 「研究の調査協力を依頼するにあたって」 事前調査・情報収集
7月	【グループ研究⑤⑥】 「事前調査・情報収集」、「夏季調査・事前打ち合わせ」
	【事前研究相談会】 「ミニポスターセッション」
8月	【海外フィールドワーク活動】 「各グループによる調査・分析」
9月	【グループ研究⑦】 「夏季調査まとめ」
10月	【グループ研究⑧】 「プレゼンテーション準備」
11月	【グループ研究⑨～⑫】 「プレゼンテーション準備」
	【グループ研究⑬】 「校内発表リハーサル」
	【グループ研究⑭】 「プレゼンテーション準備」 【校内発表会】 「ポスターセッション」
12月	【グループ研究⑮】 「レポート準備」 「アンケート回答①」
	【研究発表大会代表選考会】
1月	【グループ研究⑯⑰】 「レポート準備」 「第1回レポート提出」
	【SGH研究発表大会】 （代表3グループによる発表、海外フィールドワーク報告）
	【グループ研究⑱】 「レポート返却」
2月	【グループ研究⑲】 「レポート最終提出」 「レポート相互評価」 「アンケート回答②」

⑩GS 課題研究活用（3年次） 教材開発・実施

期日	概要
平成30年 4月	【グループ研究①】 「昨年度の反省」 「今年度の活動の見通し」
	【グループ研究②】 「学校教育をつくり出す」 「オリンピックの光と影」 をテーマに調査・研究
5月	【グループ研究③】 「調査・研究」 「発表準備」
6月	【グループ研究④⑤】 「社会科の視点からの講義」 「発表及び討議」
7月	【グループ研究⑥⑦】 「調査・研究」
8月	〔夏季休業中〕 各グループによる調査・研究
9月	【グループ研究⑧⑨】 「調査・研究」 「発表準備」
	【グループ研究⑩】 「発表及び討議」
10月	【グループ研究⑪⑫】 「グループ作成」 「各グループの課題設定」

11月	【グループ研究⑬～⑭】「調査・研究」
11月	【グループ研究⑮⑯】「プレゼンテーション準備」「校内発表事前リハーサル」 【校内発表会】
12月	【グループ研究⑰～⑳】「レポート作成」「自己評価」「レポート相互評価」
1月	【研究発表大会（代表発表会）】

⑪GS 教養講座の実施

11月17日（土）	「グローバル社会を生きる君へ」講師：島田久仁彦 氏（国際ネゴシエーター）
11月24日（土）	「大学生によるカンボジアの今」講師：國學院大学公認国際協力サークル～優志～
12月15日（土）	「成田空港の「過去・現在・未来」と「私の夢・志」」講師：木川直樹 氏（成田国際空港株式会社）

⑫国内フィールドワーク 10月5日実施（対象：1学年全員 8コース）

分野	目的・方面	訪問先
多文化共生教育	ブラジル系コミュニティ訪問（群馬県）	日伯学園、大泉町観光協会
多文化共生教育	在日外国人のための教育機関訪問（千葉・幕張）	多文化フリースクールちば 幕張インターナショナル
多文化共生	在日クルド人とクルド料理教室（埼玉県）	川口市芝公民館
多文化共生	在日ムスリムコミュニティ訪問（代々木上原）	東京ジャーミー（モスク） 神田外語大学
観光	農園リゾートで観光の新形態を探る（香取）	農園リゾート The Farm
観光環境	観光客に街頭インタビュー（浅草）	浅草仲見世
環境（観光）	足尾銅山で公害の歴史や環境NPOの活動を学ぶ（足尾）	足尾銅山観光 足尾環境学習センター 松木地区ほか
環境	東京湾で生物多様性・環境問題を考える（船橋・青海）	三番瀬海浜公園（谷津干潟） 東京都環境公社埋立処分場

⑬海外フィールドワーク（派遣先：マレーシア 派遣人数 2年生10名）

月日	滞在地	訪問先
8/1(水)	クアラルンプール	
8/2(木)	クアラルンプール および近郊	○市内フィールドワーク(B&Sプログラム)
8/3(金)		○学校（都市部私立）Seri Cahaya School○ライフヒストリー聞き取り
8/4(土)		○炭工場（ペラ州） ○クアラ・ゲラ鳥類保護区
8/5(日)	ペナン	○沿岸漁民福利協会 ○民泊体験（スンガイ・アチェ村）
8/6(月)		○スンガイ・アチェ村近郊ライフヒストリー聞き取り ○蛍ウォッチング（エコツーリズム） ○民泊体験
8/7(火)		○学校（地方部公立高）SMK Taman Widuri ○観光開発調査 Penang Development Corporation
8/8(水)		○世界遺産 Penang Heritage Trust ○ペナンの歴史・多民族社会 Gerakbudaya Bookshop
8/9(木)		成田

⑭1年次発表会等の実施

10月31日（水）	〔名称〕 フィールドワーク報告会
12月5日（水）	〔名称〕 研究計画相談会 〔講師〕 大学教員2名、大学生7名
2月20日（水）	〔名称〕 校内中間発表会 〔講師〕 大学教員11名

⑮2年次発表会等の実施

7月18日（水）	〔名称〕 事前相談会 〔講師〕 大学教員11名、大学院生2名、学部生4名
11月7日（水）	〔名称〕 事前相談会 〔講師〕 大学生6名
11月21日（水）	〔名称〕 事前相談会 〔講師〕 大学生6名

11月28日(水)	〔名称〕校内発表会 〔講師〕大学教員11名
1月24日(木)	〔名称〕代表発表会(SGH研究発表大会) 〔講師〕大学教員2名、その他3名

⑯海外姉妹校への生徒派遣

3月10日～	メーデンヒルハイスクール(イギリス・グロースターシャー州)
3月11日～	ビューバンクカレッジ(オーストラリア・メルボルン)

◆研究開発2-1 生徒主体のアクティブ・ラーニング(探究型授業・言語活動の充実)

⑮アクティブ・ラーニングに関する授業公開及び教員研修

6月 11月	英語科による授業公開及び研究協議
12月	授業アンケートに基づく各教科での研究協議

◆研究開発2-2 日本文化発信プロジェクト

⑰日本文化発信プロジェクト

- (1) 1年「コミュニケーション英語Ⅰ・総合英語」：留学生への日本文化紹介
- (2) 3年選択科目「GS日本文化」：日本文化理解と探究
- (3) 「和のコラボ」：茶道部・書道部・箏曲部のパフォーマンスと通訳ボランティア

7月14日(土)	〔実施場所〕成田空港第2ターミナルビル
10月27日(土)	〔実施場所〕成田山書道美術館

◆研究開発2-3 ボランティア・インターンシップを通じた具体的な解決を図る企画力の育成

⑱ボランティア養成プログラムの作成

ボランティア養成：通訳ボランティア事前指導、スチューデントアシスタント事前指導等

⑳ボランティア・インターンシップ関係機関との調整、関係事業所の開拓

ボランティア(一部)

時期	行事名	のべ参加者	仕事内容
4月、10月	成田山太鼓祭り・弦まつり	60人	外国人観光客への通訳ボランティア
夏休み・冬休み	学習支援ボランティア	80人	栄町教委と成田市立向台小学校で実施。
7月、10月、2月	成田市国際交流協会行事	16人	国際市民フェスタ補助、New Year Party 補助
12月18日	スチューデントアシスタント	39人	成田小学校にて英語授業指導補助
5日間	吹奏楽部各種イベント活動	300人	特別支援学校・地域イベント補助

インターンシップ

期日	概要
8月20日(月)～23日(木) (夏季休業中)	①成田空港内ユニクロ(2名、3日間) ②成田市中台第二保育所(2名、3日間) ③成田空港ロビー(4名、3日間)

◆研究開発2-4 海外留学・進学、国内スーパーグローバル大学への進学支援

㉑海外留学説明会の実施

期日	概要
5月10日(木)	「海外留学説明会」〔講師〕AFS日本協会
7月17日(火)	「海外大学進学説明会」〔講師〕トフルゼミナール進学センターカウンセラー
1月	「トビタテ!留学JAPAN」応募指導(4名全員1次選考通過)

7 目標の進捗状況、成果、評価

1 意識調査の結果から

(1) 学習プログラムの成果

今年度の意識調査の結果から、「課題研究」を中心とする学習プログラムが有効に機能していることが確認された。また、調査の各数値が、昨年度と比較して有意差のある伸びを示しており、学習プログラムの改善が進み、指導体制も整いつつあることが確認された。

(2) 「コンピテンシー」「マインドセット」「問題解決」という指標

今年度から、生徒と教員の意識調査に「コンピテンシー」「マインドセット」「問題解決」の3つの指標を導入した。教員と生徒との評価が一致する項目については、「生徒自身が成長を実感でき、かつ、他者から成長が確認できた指標」とみなすことができる。

生徒と教員の評価が一致する項目	
プラス評価	c3・他者の立場の尊重 c7・他者との協力関係 c8・複数の視点からの原因究明 m1・様々な外国に行きたい m2・異文化に触れる m7・参加者の意見を聴く p5・チームメンバーとの協働 p12・プレゼンテーション
マイナス評価	m3・自信がある m4・長所の重視 m5・役に立つ人間 p1・基礎学力としての知識 p14・質問への回答

2 外部連携

(1) 課題研究における大学等との連携

課題研究に関して、大学教員・学生等の外部人材が参画者のべ人数は、76名であった。企業・国際機関等の外部人材が参画した年間のべ人数は、51名であった。

(2) 企業・国際機関等との連携

国内フィールドワークとインターンシップの事業を中心に、国内外の企業・国際機関等との定常的な連携が定着した。

(3) 研究発表大会への生徒参加

今年度は、のべ28名（計8グループ）が研究発表会等に参加した。

- ①第2回 海の日 INSPIRE 高大連携イベント「国内のグローバル化を考える」（2名）
- ②世界高校生水会議（8名）
- ③千葉県高等学校生徒地理研究発表大会（4名）
- ④SGH 全国高校生フォーラム（1名）
- ⑤第3回関東・甲信越静地区 SGH 課題研究発表会（7名）
- ⑥日本地理学会高校生ポスターセッション（2名）
- ⑦SGH 甲子園 2018（4名）

3 その他

(1) 英語力の向上

平成28年度より英語検定を1・2年生全員受験とした結果、2級以上の合格者数が、平成27年度113名、28年度171名、29年度176名から、今年度は274名へと増加した。

(2) 入学生への波及効果

前年度と同じく、本校への入学志願者倍率の増加傾向が続いている。（普通科前期 2.83倍 → 3.03倍）

(3) SGH 第 2 期生の進路意識

SGH 第 2 期生である現 3 年生に対して、進路意識に関するアンケート調査を行った。調査の結果、3 年生全体で 34.5%、課題研究活用選択者で 46.3%の生徒に課題研究の経験が進路選択に影響（「専攻分野への影響」は全体で 9.9%、選択者で 16.7%）を与えたと回答している。課題研究の学習が進路選択に直結していることが確認できた。

4 前年度からの改善点

(1) 課題研究

①1 年・2 年の校内発表会を「ポスターセッション」に変更 [11 月, 2 月]

「明確な課題設定」と「議論を深める質疑応答」の充実のため。特に発表者と聞き手の距離が縮まることで、有益な意見交換ができた。同時に IT 機器集中が解消できた。

②国内フィールドワーク訪問地開拓（ブラジル系移民・クルド難民のコミュニティ）

③1 年中間発表会 [2 月] で、英語発表を導入

グループ編成時も希望調整を行い、16 グループ（64 名）が英語で発表。

④2 年次「課題研究発展」について、台湾修学旅行に即した教材開発に着手した。

(2) 職員研修

職員を対象とした本格的な研修会を今年度はじめて実施した。[9 月]（35 参加）

(3) 教育課程

SGH 指定終了後の教育課程に、2 年次選択科目「課題研究活用」（2 単位）を設定。

8 次年度以降の課題及び改善点

1 最終年度から指定終了へ向けて

SGH 事業は、今春から最終年度を迎えるため、プログラムを改定し、年次の課題研究を「総合的な学習の時間」の中で実施することになった。時数も限られている中、台湾の修学旅行に即したプログラムを作る必要がある。

2 「共生」観念の限界

課題研究の学習において、文化的側面のみ注目することが、政治・経済的側面を等閑に付すことになる危険性を痛感している。例えば「多文化共生」という耳ざわりのいい用語が、社会の不都合な真実を隠蔽してしまう懸念があるのではないかと。

3 評価の難しさ—個体能力観の限界—

(1) 「人間性」を評価することの懸念

(2) 個体能力観の限界（本来他者との関わりの中で成立する「コミュニケーション」や「コラボレーション」などを、「個人」だけに着目して評価するのは正当なのかという問題）

【担当者】

担当課	千葉県教育庁教育振興部指導課	T E L	043-223-4056
氏 名	小西 一央	F A X	043-221-6580
職 名	指導主事	e-mail	k.knsh2@pref.chiba.lg.jp